

学校関係者評価報告書

愛媛県立みなら特別支援学校(本校・松山城北分校)

56

評価実施日	平成31年3月12日(火)		
委員	氏名	所属等	備考
	伊藤 隆志	社会福祉法人 馴鹿(となかひ) 理事長	学校評議員
	池川 良徳	東温市見奈良区長	学校評議員
	恒岡 夕貴子	(有)松山サービス 企業内ジョブコーチ	学校評議員
	前園 俊恵	法蓮寺住職	学校評議員
	永井 裕二	社会福祉法人 松山手をつなぐ育成会 生活介護事業所 つくし園 管理者	学校評議員
	矢野 実保	PTA会長	
	宮城久美子	PTA副会長	
	苫居 幸子	PTA副会長	
	須山由希子	PTA副会長	
	窪中 潮里	PTA副会長	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>○地域交流について 東温高校の生徒とは通学が一緒になることもあり、もっと学校間の交流を活発に行って、お互いの理解を深めるといいのではないかと。(本校)</p> <p>○生徒用学校評価アンケートについて 生徒用アンケートの設問について、「はい」「いいえ」「わからない」の3つだけでは回答が難しいのではないかと。意思決定支援の在り方が問われる中で、もっと本人の意思が反映されるアンケートの内容にすべきではないかと。(本校・分校)</p> <p>○安全教育の充実について 避難訓練などの実際的な学習の場面で、防災士の資格を有する教職員がもっと能力を発揮できる活動を取り入れてはどうか。(本校・分校)</p> <p>○センター的機能の充実について 本校は児童生徒数が400名を超える大規模校であるにも関わらず、特別支援教育コーディネーターは各部に3名ずつしか配置されていない。教育相談体制を充実させるためにも、人数を増やしてはどうか。(本校)</p>	<p>○地域交流について 生活圏を共にする学校であり、様々な形で交流を継続して本校の児童生徒に対する理解を深めたい。現在、東温高校の運動会へは産業科の生徒が参加したり、夏休みに実施している本校のデイキャンプには東温高校の生徒がボランティアとして参加したりして相互交流を図っているが、より充実した活動になるように計画していく。</p> <p>○生徒用学校評価アンケートについて 意思決定支援の基本的原則は本人の自己決定を尊重して行うことである。生徒が安心して意思表示できるように、選択肢の内容を分かりやすくしたり、必要であれば図や絵などを利用するなどして、意思を最大限に尊重できるアンケートとなるように内容を検討する。</p> <p>○安全教育の充実について 避難訓練において重要なことは自分の命を守る行動や避難行動を確実に実践することである。より実際的な場面を想定して今後も実施していくと同時に、場面に応じて防災士による防災・減災に関する知識と技能を伝える活動も行う。また、夏季休業中に教職員向けに実施している防災講習会(煙体験、消火栓使用訓練)では防災士による小グループでの研修を新たに実施する。</p> <p>○センター的機能の充実について 特別支援教育コーディネーターは各学年に1名ずつの配置(小学部では低中高学年に1名)して、各関係機関との連絡・調整を行い、児童生徒への支援をスムーズに行う役割を担っている。相談件数の増加等で、支援の拡大・充実が求められる中、質の改善にも取り組んでいる。一人当たりの負担軽減を図るため、校内の資源を有効に活用するとともに、関係者の連携を強化し情報共有し、チームとしての充実した対応ができるよう努めていきたい。</p>

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
<p>○進路指導の充実について</p> <p>就労支援コーディネーターが配置され、新たな就労先を開拓して進路選択の幅が広がったことは意義深い。本校では福祉サービス等を進路先として選ぶことも多く、事業所の実態をよく把握したうえで、一人一人の適性或ニーズに合った進路選択がなされるようにしてほしい。</p>	<p>○進路指導の充実について</p> <p>働き手不足や法定雇用率の引き上げにより企業からの求人は増加しており、多くの事業所が参入する中、就職率も上昇すると見込まれる。しかしながら、その進路先の選択については、各個人の適性を十分に検討するとともに、福祉サービスの提供の内容等を十分に把握したい。その上で、本人、保護者、担任と進路担当者が更に連携を密にした情報共有を行い、一人一人の卒業後の生活が豊かになり、生き生きと活躍する場を選ぶことができるようにしていきたい。</p>